

Weekly コラム

令和 5 年 5 月 30 日

〒541-0055 大阪市中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会)

Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

飛躍の印

カースト制度。それは長らくインド国民を縛ってきたヒンドゥー教の教え。このカースト制度によりインド国民は職業や選挙、結婚など多岐にわたり階層で分けられ、超えられない身分の壁として立ちはだかってきました。

そんなインドは今年2023年、人口で中国を抜き世界一になる見通しになりました。長らく中国が人口世界一だった常識が変わる、歴史的な年となるでしょう。もちろん、そればかりではなくインド経済は23～27年の間、5年平均6.5%成長が見込まれ、一定の経済規模を持つ国では最も高い数値となります。現状では、GDP4位のドイツを2025年に、3位のわが日本を2027年に抜き去る見込みです。その影響か、昨年の急速な利上げで各国は株価指数を大きく値を落としましたが、インドSENSEXは安定的に上昇していきました。

インド経済の大きな武器は、もちろんIT分野です。コロナ禍以前の10年間、平均6.9%成長を牽引してきた産業がITです。なぜインドがITに強いのか、は様々な要素がありますが、そのなかで最も大きな理由と思われるのが、「ITは新しい産業だから、カーストの制約はなく、身分・階層に関係なく優秀な人材が集まれる」ことでしょう。

インドは1991年に社会主義的政策から経済自由化政策に切り替え、発展の基礎を築きました。そして今のモディ政権が注力する領域が製造業、とりわけ半導体分野です。半導体はコロナ禍以後、必要量を確保することが最も難しいもののひとつであり、自動車やPC、

携帯電話など様々な製品の製造に影響を与え、現在のインフラの一因になったものと考えられています。

2023年はインフレの進行とそれを抑えるための昨年からの利上げにより、景気後退が懸念されています。世界半導体統計(WSTS)は昨年11月29日、半導体市場規模は前年比4.4%増の5801億ドルと昨年8月発表の見通し13.9%増から大幅な下方修正となりました。そして2023年の市場規模は前年比4.1%減の5566億ドルと予想されています。半導体の伸び率がマイナスとなるのは、2019年以来4年ぶりのこととなります。この状況を打破するには、ここからのインド経済成長や半導体市場への発展、飛躍にかかっているのではないのでしょうか。そして、この閉塞した世界の経済状況を打破する、第一歩になるのではないのでしょうか。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX 不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。